



国立大学法人 千葉大学
National University Corporation
Chiba University

ニュースリリース

平成 21 年 11 月 26 日
千葉大学

地域を共につくる

千葉大学「共生環境デザインによる房総半島活性化支援」シンポジウムを開催

千葉大学では、園芸学部の自然環境に対する蓄積と、工学部の人工環境に対する蓄積をもとに、千葉県・市町村・地域住民と連携して、環境デザインの研究と実践に取り組んでいます。

今回のシンポジウムでは、文部科学省「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」に採択された3年間のプロジェクト成果を紹介し、地域と共に生きるデザインの可能性とこれからの地域づくりを、地域の行政・住民と共に考えるシンポジウムを開催します。

つきましては、取材にお越しくくださるようご案内いたします。

1. 日 時 平成 21 年 12 月 4 日（金） 10:00～15:00
2. 場 所 京葉銀行文化プラザ 6階 櫛の間
（千葉市中央区富士見 1 丁目 3・2）
3. 内 容 別紙をご参照ください。

〔参考資料〕

- 1) シンポジウム案内チラシ

本件に関するお問い合わせ先
千葉大学 現代 GP「共生環境デザインによる
房総半島活性化支援」事務局（担当：堀）
Tel/Fax：043-290-3106
E-mail：hori.tatsuya@restaff.chiba-u.jp

地域を 共につくる



入場無料・申し込み不要

日時 2009.12.4 (金) 10:00 ~ 15:00

会場 京葉銀行文化プラザ (JR 千葉駅前)

千葉市中央区富士見1丁目3-2 6階 けやき 櫛の間

◆挨拶

北村 彰英 (千葉大学理事)

◆基調講演

「大学と地域の連携による共生環境づくり」

片寄 俊秀 (大阪人間科学大学教授)

◆報告

「共生環境デザインの展開」

◆パネルディスカッション

「共生環境デザインはどこまで育ってきたか」

パネリスト

石田 晶久 (千葉県総合企画部参事)

石田 三示 (大山千枚田保存会理事)

木下 勇 (千葉大学園芸学研究科教授)

椎名 千収 (山武市長)

清水 忠男 (千葉大学名誉教授, 製品・環境デザイナー)

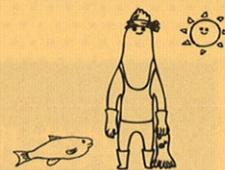
長田 謙一 (首都大学東京システムデザイン学部教授)

コーディネーター

北原 理雄 (千葉大学工学研究科教授)

共生環境デザイン—それは誰にとっても優しく、そして使いやすい、共に生きるためのデザインです。人と自然、人と機械、都市と農村、子どもとお年寄り、住む人と来る人…いろいろな共生があり、いろいろな共生環境デザインがあります。園芸学部の自然環境に対する蓄積と工学部の人工環境に対する蓄積—千葉大学は、この2つの大きな流れをもとにして、環境デザインにかかわるさまざまな研究や実践に取り組んでいます。今回のシンポジウムでは、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択された3年間のプロジェクト成果を紹介し、共に生きるデザインの可能性と、これからの地域づくりを考えます。

地域を共につくる



基調講演

「大学と地域の連携による共生環境づくり」

片寄 俊秀

大阪人間科学大学教授



1960 京大工学部建築学科卒、同修士了。西山卯三研究室。
 1961-62 京大アフリカ類人猿学術調査隊(今西錦司隊長)の設営担当。その記録『ブワナトシの歌』(朝日新聞社 63 梅棹忠夫監修)は、羽仁進監督、渥美清主演で同名映画化。
 1962-70 大阪府企業局宅地開発部に勤務、千里・泉北ニュータウン開発事業等に従事。
 1968-69 日本万国博世界民族資料収集調査団の東アフリカ担当。この収集資料などが「国立民族学博物館」誕生に貢献。
 1970-96 長崎総合科学大学(旧長崎造船大学)建築学科教員。「82 長崎大水害」後の再生まちづくりで奮闘。また、国の諫早湾干拓に対して代替案を作成し、社会的課題に対する専門家の役割を示した。
 96-2006 関西学院大学総合政策学部教授。まちかど研究室「ほんまちラボ」を三田市内に開設。
 2006- 現職。摂津市正雀商店街「コミュニティスペース」設置参加。著書「ブワナトシの歌」(映画)、「スケッチ全国町並見学」、「商店街は学びのキャンパス」、「まちづくり道場へようこそ」、「まちづくりの危機と公務技術」

パネルディスカッション

「共生環境デザインはどこまで育ってきたか」

石田 晶久

千葉県総合企画部参事



持続と自立の地域づくりには、定住政策が必要です。千葉県は、定住政策を実施できる数少ない地域だと考えています。現場主義的な現代GPの取り組みにより、私どもの政策の促進を支援していただき感謝しております。

石田 三示

大山千枚田保存会理事



過疎、高齢化、耕作放棄という状況を逆手にとって、鴨川の大山千枚田では都市と農村の交流活動を進める新しいスタイルの農村づくりを実践してきました。

木下 勇

千葉大学園芸学研究科教授



学生が地域に入る事は、地域活性化の要件としてよく言われる、ワカモノ、ヨソモノ、バカモノの二つの要素は満たしている。後は地域に執着、定着するいい意味での、バカモノにいかになれるかだ。

椎名 千収

山武市長



山武市は、「誰もが幸せを実感できる独立都市さんむ」をスローガンとし、成東・松尾駅周辺の活性化に、千葉大学との連携の基に取り組んでいます。これにより、市民、商工会や行政が将来の山武市を見つめ直す動きが出てきています。

清水 忠男

千葉大学名誉教授、製品・環境デザイナー



人は一人では生きて行けません。自分のことに加え、他人や地域や地球への思いやりを、ソフトやハードを連携させながら、生活の場の形成に反映してゆくために、デザインがあるのだと考え、行動しています。

長田 謙一

首都大学東京システムデザイン学部教授



千葉大学在任中学生達と様々なアートプロジェクト(2000~02 検見川、03~05Wi-CAN等)を展開。現職大学でも東京都日野市中心新たなプロジェクトを開始、千葉・東京都の文化振興ビジョン策定に従事という見地から参加。

北原 理雄

千葉大学工学研究科教授

コーディネーター



人びとの生活と活動の舞台になっている都市環境・自然環境を「ひと・こと・もの」の3つの側面から豊かで魅力的なものにするため、地域との人たちとともに考え、行動していきたいと考えています。

入場無料・申し込み不要

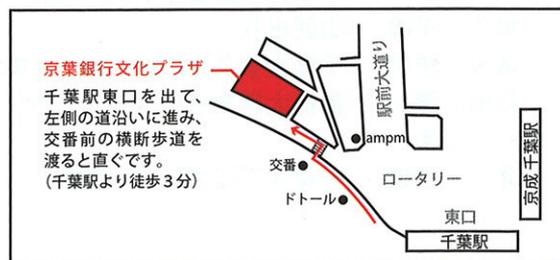
日時 2009.12.4 (金) 10:00 - 15:00

会場 京葉銀行文化プラザ (JR千葉駅前)

千葉市中央区富士見1丁目3-2 6階 櫺の間

シンポジウム終了後に交流会を行います。各地で活動される皆さんと、地域づくり・共生環境づくりに関して、意見交換を行いたく存じます。ぜひご参加ください。

とき 15:30 ~ 17:30 / 場所 ペリエホール / 会費 2,000円



主催 : 千葉大学
 後援 : 千葉県、いすみ市、鋸南町、山武市、館山市、南房総市、鋸南町商工会、山武市商工会、他
 問合せ先 : 千葉大学現代GP「共生環境デザインによる房総半島活性化支援」事務局 (担当 堀達哉 043-290-3106 / hori.tatsuya@restaff.chiba-u.jp)